

04

起立性低血圧の原因

起立性低血圧は、下記のような様々な原因で起こります。離床時にはこれらの原因を特定するため、フィジカルアセスメントの結果や検査データを確認します。



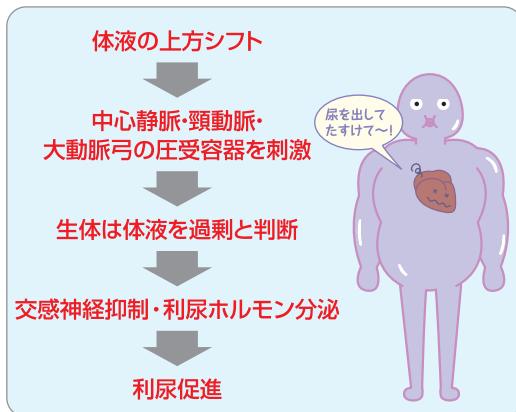
起立性低血圧の原因予測

離床を進めていく上で、起立性低血圧の症状が認められたとき、血圧、脈拍数をチェックすると、その原因を大まかに予測できます²⁾。

	非神経原性起立性低血圧	神経原性起立性低血圧
原因	脱水や出血などにより、循環血流量・静脈還流量が大幅に減少し、血圧調整の代償能力を越えて生じる血圧低下	自律神経の異常により交感神経、迷走神経の調節機能が低下し、血管収縮、心拍数上昇が生じないためにおこる血圧低下
変化	収縮期血圧の低下、拡張期血圧の上昇、脈拍数の上昇	収縮期、拡張期血圧の低下、脈拍数の低下

寝たきりで起立性低血圧が発生するワケ

実は、患者さんを初めて臥床した時から、脱水が始まっています。その機序を説明していきましょう。人の血液は座位や立位から臥位になると、足から上半身に移動します。長い間臥床姿勢でいると、体水分のレセプターである圧受容器は常に刺激されるため、実際には普通の体水分量なのに、「体全体に水分が多い」と勘違いしてしまいます。その結果、利尿ホルモンが分泌され、必要なはずの尿が体外へ出てしまった結果、体は脱水状態に陥ってしまうのです。



トピックス

血圧を保つ反射も衰える

人は起立時の血圧低下を防ぐために、生体の防御反応があります。臥床によってこれらの反射を減弱するため、起立性低血圧を起こすのです。

心肺圧受容器反射

血液が下半身へ移動し、静脈還流が減少すると、心房や肺血管に存在する圧受容器が反応し、交感神経を亢進させ血圧低下を防ぎます。



動脈圧受容器反射

血圧低下によって動脈圧が低下すると、頸動脈洞や大動脈弓部に存在する受容器が働き、迷走神経を抑制して交感神経を亢進させ、血圧低下を防ぎます。

末梢血管・脳化學受容器反射

動脈圧受容器反射では血圧低下が止まらない場合、末梢血管や脳に存在する化學受容器が働いて交感神経活動を亢進させ、血圧低下を防ぎます。



Venoarterial reflex

皮膚や骨格筋における静脈の伸張刺激が同部位の動脈収縮を起こし、血圧の低下を防ぎます。

